相的意味を表す away, on と句動詞

岸 野 英 治

Aspectual Meanings of AWAY and ON in Phrasal Verbs

KISHINO Eiji

Abstract : Particles such as those in examples (1) to (5) add aspectual meanings to the verbs. Let us consider the following examples :

(1) They *chipped away at* the power of the government.

(2) If you like a good story, *read on*.

(3) I don't mind you using the kitchen as long as you *clear up* afterwards.

(4) Don't judge the man guilty without at least *hearing* his story *out*.

(5) If her phone's engaged, *keep on* trying.

In example (1), *away* adds the sense of "continuation" to the verb *chip*. In example (2), *on* adds the sense of "continuation" to the verb *read*. In example (3), *up* adds the sense of "completion" to the verb *clear*. In example (4), *out* adds the sense of "perfection" to the verb *hear*. In example (5), *on* reinforces the sense of "continuation" already expressed by the verb *keep*. In this way, the particles *away, on, up* and *out* add aspectual meanings to the verbs and form phrasal verbs or phrasal prepositional verbs. Our concern in this thesis will be with the particles *away* and *on*, which are construed with certain verbs to add the aspectual meaning of "continuation." *Away* has the central meaning of "movement from a starting point," while *on* has the central meaning of "contact with a surface." By taking these central meanings into consideration, we can make it clear that *away* and *on* are different in meaning. Also it will be shown how greatly the particles *away* and *on* contribute to the formation of phrasal verbs and phrasal prepositional verbs.

1. はじめに

相的意味（aspectual meaning）を表す不変化詞は，動詞の表す意味に反復，継続，完了，強調などの意味を加え，いわゆる句動詞（phrasal verb）あるいは句前置詞動詞（phrasal prepositional verb）を形成する。そのような不変化詞に away, on, up, out などがある。次の例を見てみよう。

（1）They *chipped away at* the power of the government.［OALD］

（2）If you like a good story, *read on*.［OALD］

（3）I don't mind you using the kitchen as long as you *clear up* afterwards.［LDCE］

（4）Don't judge the man guilty without at least *hearing* his story *out*.［LDPV］

（5）If her phone's engaged, *keep on* trying.［CIDE］

(1) において away は継続的意味を，(2) において on は継続的意味を，(3) では up は完了の意味を，(4) では out は完結の意を，(5) では on は強調の意をそれぞれの動詞の意味に付加している。このように away, on, up, out は動詞の持つ意味に相的な意味を加え，次々と新しい表現を作り出している。本稿では，このうち away と on の2つの不変化詞に焦点を当て，どのような動詞と結合し，またどのような前置詞と結合し，いわゆる句動詞あるいは句前置詞動詞を形成するのか，またその過程においてこの2つの不変化詞はどのようにして継続という相的意味を表すように

なったのか，そのあたりのことを実証例をもまじえながら考察してみたいと思う。

2. AWAY

2. 1. AWAY の継続的意味

away の継続的意味について，たとえば WNWCD は "without stopping ; continuously" また OALD は "used after verbs to say that something is done continuously or with a lot of energy" と定義して，それぞれ次のような用例を与えている。

（6）He *worked away* all night. [WNWCD]

（7）She *was* still *writing away* furiously when the bell went. [OALD]

（8）They *were* soon *chatting away* like old friends. [OALD]

若干用例を補足する。

（9）They'*ve been hammering away* all day. [LDCE]

（10）You two never pay attention, you'*re* always *laughing away*. [CIDE]

上例（6）－（10）から次のようなことが推察される。

(a) 継続の意の away は自動詞と結合し，他動詞とは結びつかない。

(b) 活動（activity）や過程（process）を表す動詞と結合し，運動（motion）を表す動詞とは結びつかない。

(c) 動詞は進行相で用いられることが多い。

(a) に関連しては，Lindstromberg（1998, pp. 283–84）は Rice を引用する形で，away は自動詞または目的語を省略した他動詞とともに用いられるとして，I'm ready for questions. *Ask away*.（質問に対する準備はできている。どんどん尋ねてくれ）は文法文だが，次の文は非文としている。

（11）I'm ready for questions. ×*Ask away* questions.

（12）I'm ready for questions. ×*Ask* questions *away*.

また (b) に関連しては，運動動詞と結合することはきわめてまれ（very uncommon）とし，その理由は，おそらく away は文字通り経路（path）を表す前置詞と解されることによるためであろうと述べている。いずれにしても，これらの制約は，away の持つ基本的意味つまり中核的意味（central meaning）と緊密に関係していると考えられる。

2. 2. AWAY の中核的意味

LDCE 第4版（2003）は，away の意味を細分化して11に語義区分し，それぞれ定義を与えているが，その第1番目の定義である "used to say that someone leaves a place or person, or stays some distance from a place or person" はその中核的意味を表していると考えられる。言い換えると，「起点を離れて移動して，または起点を離れて移動した位置に（ただし起点は含まない）」という意味である。図示すると次のようになる。

図1

AWAY

ちなみに起点からの移動を表す away from は次のように図示される。

AWAY FROM

この「起点からの移動（movement away from a starting point）」は終点（end point）もなく続くことから，永続的な意味を表す。これが比喩的に転用されて，活動または過程を表す動詞と結びついて「際限なく続くこと（continuation without limit or restriction）」を表す。

（13）She *was singing away* to herself in the bath. [LDCE]

（14）I forgot all about the kettle and left it *boiling away* for half an hour. [CIDE]

（15）Hannah *was* still *scraping away at* the bowl and licking the sweet mixture from the spoon. －Alf Prøysen, *Mrs Pepperpot Stories*
（ハナはあいかわらずスプーンをボールにこすりつけ，スプーンにすくった甘いものをなめていた）

（16）Richard asked, 'Was the woman *playing*（原文イタリック）the harp?' 'Yes, she *was strumming away*.' Rebecca made circular motions with her hands. －John Updike, *Snowing in Greewich Village*
（リチャードは，「その女の人がハープを弾いていたの？」と尋ねた。「ええ，弾いていたわ」リベッカは，両手で円を描くようなしぐさをしてみせた）

用例（13）では「一人歌い続けた」ことが，（14）では「30分間沸騰し続けた」ことが含意される。また（15）では，still を伴い進行形で用いられていることからも「ボールにこすり続けていた」ことがわかる。（16）では，文脈から「ハープを弾き続けていた」ことは明らかである。このように，away は活動や過程を表す動詞と結びついて継続の意を表す。その結びつきがやがて慣用化して句動詞または句前置詞動詞を形成する。

2. 3. AWAY を伴った句動詞・句前置詞動詞

継続という相的意味を表す away を伴って句動詞または句前置詞動詞としてイディオム化したものは，比較的限られており，数はそう多くはない。たとえば次のようなものがある。

bang away（at）	beaver away	blast away
blaze away	chip away at	drive away at
grind away（at）	hammer away at	jabber away
peg away（at）	plod away（at）	plug away（at）
puff away	pump away	slave away（at）
slog away（at）	steam away	talk away
tick away	toil away	type away
work away（at）		

ここで，2. 1. でも触れたが，away は自動詞と結合し，自動詞句動詞（intransitive phrasal verb）を形成するということ，また結合する動詞はいずれも活動や過程を表す動詞であることに注目したい。以下に用例をあげておく。

（17）She *has been slaving away at* the report all day.［OPVD］

（18）'I see James's light is still on, although it's nearly two am.' 'Yes, he has a biology exam on Friday, and he'*s grinding away at* it to make up for lost time.'［ODCIE］

（19）If you *peg away at* cricket practice all your youth, there is some hope that you may be chosen for the team.［LDPV］

さらに注目しておきたいのは，目的語を言い表す必要のある場合，上例（17）－（19）からもうかがえるように，取る前置詞は主に at であるということである。つまり away at という結びつきが強く，「動詞＋away＋at」という句前置詞動詞が作られる。この away at の連語（collocation）については次のように考えることができる。at はもともと一点（a point）を示す前置詞である。point *at* the building（あの建物を指さす），aim the gun *at* the target（銃を標的に向ける）などの連語で用いられることからもそのことがわかる。この at と継続の意の away が連語すると，「一点に向かって（at）ずっと（away）活動を続ける」という意味を表す。ここから，LDCE の定義でもみたように「精力的に（with a lot of energy）」あるいは「一生懸命に（very hard）」の意味が出てくることもうなずける。また away は継続を表すことから，文脈によっては「着実に（steadily）」，「粘り強く（persistently）」などの意を含むこともある。

上例（17），（18），（19）に訳を与えてそのことを確認しておきたい。

（17）彼女は一日中ずっとレポートの作成に追われている。

（18）「もう午前2時だというのにジェームズの部屋にはまだ明かりがついているよ」
「そうなの。金曜日に生物の試験があるので，今までの遅れを取り戻そうと一生懸命勉強をしているのよ」

（19）「若いときにクリケットの練習を怠らずにずっと続けていると，チームのメンバーに選ばれることだってあるよ」

さらにここで気づくことは，slave, grind, peg という動詞は，それぞれの持つ意味のニュアンスは伝えているものの，work と置き換えてもほぼ同じ意味を表す。つまり slave［grind, peg］away at≒work away at という公式が成り立つと言える。同じことが hammer away at, drive away at, plod away at, slog away at, bang away at, beaver away at などについても言える。

以上は活動を表す動詞についてであるが，過程を表す動詞についてみておこう。次例（20）の chip,（21）の eat は過程を表している。この過程を表す場合，活動を表す動詞とは違って，away と結びついても動詞の性質上 "with a lot of energy" や "hard" の含意はない。

（20）Deflation continues to *chip away at* property values and household wealth. －*International Herald Tribune* 2003. 6. 12
（デフレは資産価値や一家の資産を少しずつ食いつぶし続けている）

（21）The possibility was almost unendurable to consider. It also tended to *eat* slowly *away at* my sense of justice. －J. D. Salinger, *De Daumier-*

Smith's Blue Period
（その可能性は考えただけでも耐えがたいことだった。同時に，私の正義感もじょじょにむしばまれていくようだった）

away が過程を表す動詞と結びついた場合，用例（21）において eat slowly away at とあることからもうかがえるように，away は通例「ゆっくりと（slowly）」，「少しずつ（a little）」，「じょじょに（gradually）」の意を含む。この「過程動詞＋away＋at」の型は，「一点に対して（at）少しずつ（away）ある過程が始まっている」と解することができる。

最後に，away は，文脈によっては次の例からも観察されるように，反復（repetition）という相的意味を表すことがある。

（22）Yes, I'*m* still *grinding away at* the same old job.［LDPV］

3. ON

3. 1. ON の継続的意味

on が継続的な意味を表すことは，たとえば次の OALD, LDCE の定義からも明らかである。

OALD : used to show that something continues

LDCE : used to say that someone continues to do something or something continues to happen without stopping

この on が多くの動詞と結びつき継続の意を表すのだが，結合する動詞によって継続にその意味合いの違いがあることがわかる。大まかに次のように分けることができる。

（a）移動（movement）や活動（activity）を表す動詞と用いてその動作が継続していることを表す。

（23）We *drove on* until we came to an open square full of cafes.［OPVD］

（24）We decided to *play on* even though it was snowing.［LDCE］

（b）継続（continuation）を表す動詞と用いて継続の概念を強める。

（25）I wish you wouldn't *keep on* interrupting me!［OALD］

（c）比喩的な意味に用いて前方への進行的な意味を表す。

（26）*Urged on* by the crowd, the Italian team scored two more goals.［LDCE］

（27）Joe didn't want to jump, but his friends kept *egging* him *on*.［LPVD］

on のこの継続的な意味を考えるにあたり，まずその中核的な意味を探ってみる。

3. 2. ON の中核的意味

空間を表す前置詞を考える場合，問題となる場所がどういう次元（dimension）を有するかという観点から捉えることができる。on に関して言えば，on は1次元または2次元との関連で捉えることのできる語である。たとえば，

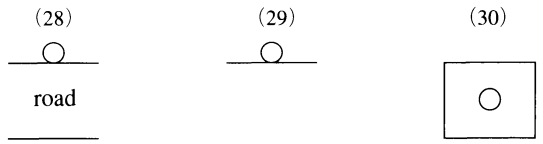
（28）Our cottage is *on* that road.［Quirk *et al*.］

（29）Could you help me put the washing *on* the line?［CIDE］

（30）He got his winter jacket from the closet and dropped it *on* the sofa.［CCED］

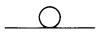
（28），（29）では，対象物との関連を1次元の線（line）として，（30）では2次元の表面（surface）として捉えたものである。図示すると次のようになる。

図2



この図からも明らかなように，on は線または表面との接触（contact）を表す。接触しておれば上であっても下であってもあるいは斜めであってもそれは構わない。この「表面との接触（contact with a surface）」こそが on の持つ中核的意味なのである。これは次のような基本的概念図に還元できる。

図3



さて，on が，継続的意味を表すことは3. 1. で概略述べた通りだが，この継続的意味についてさらに考えてゆきたい。on は「前方への移動（movement forward）」を表すことがある。以下の例をみてみよう。

（31）You *cycle on* and I'll meet you there.［CIDE］

（32）If you *walk on* a little, you can see the coast.［LDCE］

（33）Please *send* the letter *on to* my new address.［OALD］

（34）Time *is moving on*.［OALD］

（31）は「自転車でそのまま先へ行く」，（32）は「もう少し先まで歩いて行く」，（33）は「手紙を転送

する」の意で，いずれも on は "movement forward or ahead" の意味を表す。(34) はこの on が比喩的に使われた例で，「時間がどんどんたつ」の意である。この前方への移動を表す on は次のように図示される。

図 4

この基本イメージ図からもわかるように，動きを開始するとそれは前方への移動となる。前方への移動が続くとそれは継続となる。このようにして継続の意味を表すのではないかと推察される。場合によっては「前方への移動」か「継続」かは曖昧な場合がある。次の例において，on は "to drive forward" の意か "to continue driving" の意味かは，適切な文脈があって初めて明らかとなる。

(35) We *drove on* towards Manchester. [LDCE]
(解釈 1：私たちはマンチェスターに向かって車を走らせた)
(解釈 2：私たちはマンチェスターに向かって運転を続けた)

次にこの継続の意味を表す on がどのような動詞と結合し，どのようなニュアンスを伝えるか検討してみよう。

(A) 継続の意の on は move, go, run, walk などの移動を表す動詞，または read, sing, work, toil, talk, chat などの活動を表す動詞と連語して，その移動や活動が継続していることを表す。

移動を表す動詞の例：

(36) They *walked on* in silence for a while. [CCED]

(37) She said those words during the time the preparations for the party *were going on*. —Agatha Christie, *Hallowe'en Party*
(彼女があんなことを言ったのは，パーティーの準備が進行しているときでした)

(38) Darkness *was coming on*. [PAP]

(39) We spent a few days in Seattle and then *flew on* to L. A. [OPVD]

用例 (39) は，「途中立ち寄って，さらに飛行機で旅を続けた」ことを表しており，このように on は「いったん中断をしてさらに続ける」の意味でも用いられる。次例 (40) の go on with という句前置詞動詞も同様の意味を表す。

(40) She considered whether to say good-bye, now that the matter had been settled, and *go on with* her walk. —Bernard Malamud, *The Assistant*
(彼女は，問題が解決したので，さようならを言ってから散歩を続けようかと考えた)

このことは，OALD が "to continue an activity, especially after a pause or break" と定義していることからも明らかとなろう。

活動を表す動詞の例：

(41) If the examination shows your company enjoys basically good health, *read on*. [CCED]

(42) Both teams managed to *play on* into overtime, despite the blistering heat. [LDCE]

(43) Even though success is impossible now, we shall *work on* until we are told to stop. [PAP]

(44) We shall just have to *fight on* until we are either all dead or without any more bullets. [PAP]

(45) As Bim *talked on*, flicking with increasing rapidity at the stiff eave of brown hair that overhung his forehead with conceited carelessness, he would say anything to round out a sentence, never surrendering his right to be taken seriously. —John Updike, *Who Made Yellow Roses Yellow?*
(ビムは話しを続けるにつれ，額にたれた褐色の髪を，気取って無造作にしだいに早く払いのけた。なんとか自分の言っていることをきちんと聞かせようと，文章を完結して話した)

上例 (41)—(45)，また用例 (24) からもうかがえるように，on が連語する活動動詞は，(i) play, read, sing, count, paint などの一般的な活動を表す語の他に，主として (ii) talk, chatter, babble, drone などの「話す」を意味する動詞，(iii) work, labor, toil, slog, soldier などの「働く」を意味する動詞，(iv) battle, fight, struggle などの「争う」を意味する動詞である。

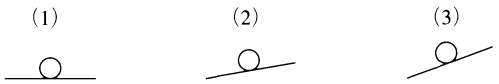
継続を表す on は，「抵抗」これは「摩擦 (friction)」(cf. Lindstromberg 1998, p. 284) といってもいいが，そういった含意を伴うことがある。用例 (24) でいえば，even though it was snowing (雪が降っていたけれども) から明らかなように，試合の続行は降雪という困難，抵抗にもかかわらず決められたわけである。用例 (42) は，焼けつくような暑さにもかかわらず (despite the blistering heat)，両チームはなんとかオーバータイムに持ち込んだの意である。ここには「苦労して」，「努力して」の含意がある。

このように on は「何か困難なこと，いやなこと (something difficult or unpleasant) (cf. OPVD) を続け

るという含意を伴うことがある。このことからonがlabor（精出して働く），toil（あくせく働く），slog（こつこつ働く）などの動詞と，またfight（戦う），battle（争う），struggle（奮闘する）などの動詞と結びつくことも理解できる。用例（43）はonがworkと結びついた場合である。ここでもeven though success is impossible（成功する見込みは全くなかったにもかかわらず）とあることからも明らかなように，抵抗があるにもかかわらず頑張って働き続けるという意味で，onは困難や努力の意を含む。用例（44）はonが「戦う」の意のfightと結びついた場合である。全員殺されるまで戦うか，あるいはこれ以上の銃弾を浴びないで戦い続けるかの意で，危険という困難の含意がある。

いったいどうしてonにこのような「困難」，「努力」といった含意が伴うのか，もう一度中核的意味に立ち戻って考えてみたい。前にも述べたように，onは「表面との接触」という中核的意味を持つ語である。物体が表面の上を接触しながら運動すると摩擦という抵抗が生じる。イメージ図を描くと次のようになる。

図5



(1)→(2)→(3) といくにしたがって抵抗の度合いは大きくなるが，その度合いはonが結合する動詞また文脈などの要素によって決定される。いずれにせよ，物体が抵抗を受けながら運動するということは何らかの力を要する。これが「努力」という概念と結びつくのではないかという推測が成り立つ。

次にawayとの比較において継続の意を表すonをみておこう。

(46) He *worked on* without a break. [OALD]

(47) He *worked away* all night. [WNWCD]

(46) には，without a break（休憩も取らずに）という副詞句がある。取るべき休みも取らずに働き続けたという意味で，work onには不断の努力という含意がある。(47) は，work awayはall nightという不定の期間を表す副詞句と用いられている。awayは2. 1. で述べたように終端（end point）のない移動を表す。そういう意味でこのような不定の期間を示す語句と結びつくことは自然である。逆にwithout a breakと結びつくと不自然な文になる。

(48) ? He *worked away* without a break.

いずれにせよ，onはこのように抵抗や努力の含意を伴うことがあるが，onがtalk, chatterなどの「話す」を意味する動詞と結合した場合，用例（45）からもうかがえるように，通例このような含意はない。このことは以下の用例からもわかる。

(49) We *talked on and on* into the night. [CIDE]

(50) He *went on and on* about his job all evening. [LDCE]
（彼は午後から夜になるまでずっと自分の仕事のことを話し続けた）

(51) 'It's the pioneer,' Macy said: she seldom volunteered her opinions, and in this case, Arthur felt, did it only to keep Leonard from *running on and on* and eventually embarrassing himself. —John Updike, *Sunday Teasing*
（「開拓者だからよ」とメイーシーが言った。彼女はめったに自分から意見を言うことはないのに，いまこんなことを言うのは，レナードがどんどんしゃべって最後に恥ずかしい思いをさせないためだなと，アーサーは思った）

(52) ". . . Yes. Mrs. Llewellyn-Smythe knew how to pick people. It wasn't just a question of a handsome young man as a protege. Some elderly women are foolish that way, but this chap had brains and was at the top of his profession. But I'*m wandering on* a bit. Mrs. Llewellyn-Smythe died nearly two years ago." —Agatha Christie, *Hallowe'en Party*
（「そうですね。ミセス・ルウェリン・スマイスは人を見る目があったのです。仕事をまかすには，ハンサムな若い男ということはあまり問題ではなかったのです。その点，年老いた女にばかな人もいるものですが，この男は頭もよかったし，そのうえ，仕事ではトップクラスでしたよ。少しよけいなおしゃべりをしたようですね。ミセス・ルウェリン・スマイスは2年ほど前に亡くなりましたよ」）

上例（49）—（51）はon and onの形で用いられており，onがさらに付加されて継続の意が強められている。そこには困難や努力の含意はない。onがこのように「話す」を意味する動詞と結合すると，困難や努力の意が含意されないのは，おそらく言葉は自然と口をついて出てくるという動詞の特性によるのではない

かと考えられる。

(B) on は stay, live などの継続の意味を表す動詞，あるいは keep, continue, linger などの継続そのものを表す動詞と結合して，継続の意味を強めることがある。

(53) He belittled her fears, and when he came down on Saturday morning, spoke to Frank about *staying on* for a while. －Bernard Malamud, *The Assistant*

(彼は妻の心配を軽くあしらった。そして土曜日の朝，下に降りていったとき，彼はフランクにもうしばらくここにいないかと言った)

(54) Long after he was dead, his name *lived on* because of his good deeds. [LDPV]

用例 (53), (54) において，on は stay, live の継続の意味を強め，それぞれ "to continue to stay," "to continue to exist" の意味を表す。

以下は on が continue, linger, keep と結合した例である。

(55) He agreed at once to *continue on* in the store under the conditions Morris offered. －Bernard Malamud, *The Assistant*

(彼はモリスが提示した条件で店にいつづけることをすぐに了承した)

(56) I spent a week at Kandersteg and could happily *have lingered on*. [LDCE]

(57) "Aha, and what did she say to *that* (原文イタリック)?"

"She said: 'Because I didn't know at the time it *was* (原文イタリック) a murder.'"

・・・・・・・・・・・・・・・・

"They *kept* asking her why she hadn't gone to the police, and she *kept on* saying, 'Because I didn't know then that it was a murder. It wasn't until afterwards that it came to me quite suddenly that that was what I had seen.'" －Agatha Christie, *Halowe'en Party*

(「ほう，それで，彼女はそれに対して何と言いました？」「「だって，そのとき，それが殺人だとは知らなかったんですもの」って言いましたわ」)

・・・・・・・(中略)・・・・・・・・

(「みんなは，どうして警察に話さなかったのと言うし，彼女は彼女のほうで，「だって，そのときは，それが人殺しと気付かなかったんですもの。後になって，まったく突然，自分が見たのは殺人だったとわかったのよ」と言い張るばかりなのです」)

(55) は "to continue to work," (56) は "to continue to stay" の意で，それぞれ on が付加されることによって動詞の継続の意味がさらに強化されている。keep に関しては，keep doing と keep on doing の 2 つの形がある。(57) はその両形が使い分けられた用例である。ここでこの on の有無と意味の違いについて考えてみる。ジョイスは「どうして警察に届けなかったのか」と何回か尋ねられる。それに対し，彼女は一点張りで，「殺人とは知らなかった」と押し通し，繰り返し言い張る場面である。それは kept on saying と言い表わされている。この場の状況から判断して，on を添えることによって継続性・反復性を一層強く表したものと考えられる。keep on doing が keep doing よりも継続の意を強く表すことは，たとえば *Collins Cobuild English Usage* (p. 342) が，"For emphasis, you can use *keep on* instead of *keep*." (強調の意を表すには，keep の代わりに keep on を用いることができる) と述べていることからも裏付けられる。

(C) on が前方的な進行的な意味を表すことがある。

3. 2. において，on が前方的な意味を表すことから継続の意を表すのではないかと述べたが，この「前方へ」の意味か「継続して」の意味かは実際には明確に区別することが困難なことがある。たとえば，They *moved on* as soon as the cloud lifted. [CCDPV] では，「先へ進んだ」のか「移動を続けた」のかは文脈がない限り区別はむつかしい。いずれにせよ，この on は，前進的な意味で比喩的に用いられることが多い。次の例では，push on は，「話を強引に押し進めていく」の意味で用いられている。

(58) "I know. I know. It's terrible. I don't like to think of it, to be reminded of it."

She got up, moving about restlessly. Poirot *pushed on* relentlessly.

"We are still presented with a choice there. We still have to find the motive involved." －Agatha Christie, *Halowe'en Party*

(「わかってます。わかってますわ。恐ろしいことです。わたくし，考えるのもいや，思い出すのもいやですわ」彼女は立ち上がり，落ち着きなくあたりを歩き回った。ポアロはさらに容赦なく話を押し進めた。「わたくしたちは，いまだに一つの選択をつきつけられて

いるのです。殺人の動機を発見しなければならないのです」)

前進的な意味から，以下の例に見られるように，on は「進歩（progression)」,「促進，激励（encouragement)」などの意味を表す。

(59) John *is coming on* like a house on fire now that he is receiving the proper treatment. [ODCIE]

(60) Their shouts of encouragement *spurred* us *on*. [OPVD]

(61) There was no one there to *cheer* him *on* or applaud. [CCDPV]

(62) The boy had dived from the bridge, *goaded on* by a crowd of his friends. [LPVD]

(63) 'No, he just sat down and played something else. I couldn't tell what it was.'
'Is this *really*（原文イタリック）true?' John asked, *egging* her *on*.
—John Updike, *Snowing in Greenwich Village*
(「いいえ，あの人はただすわって何か他の曲を弾いていたわ。それがどういう曲かはわからなかったけどね」「それ，実際，ほんとうなの？」ジョーンはそそのかすようにたずねた)

(64) She could think of Nigel, of Brenda's grave, with a sad wondering pity, but no longer with the cold lifeless despair that *had urged* her *on* to seek oblivion in death. —Agatha Christie, *Destination Unknown*
(彼女はナイジェルやブレンダの墓のことを思うと，悲しく胸がいっぱいになったが，彼女をそそのかして死の忘却を求めさせたあの冷たいどうしようもない絶望感はもはやなかった)

3. 3. ON を伴った句動詞・句前置詞動詞

継続という相的意味を持つ on を伴う句動詞，句前置詞動詞に次のようなものがある。

bang on（about）	bash on（with）	carry on（with）
cheer on	come on	drag on
draw on	drone on	egg on
get on（with）	get on at	get on for
go on	go on（with）	goad on
grind on	hand on（to）	harp on
hold on	hold on to	hurry on
keep on	keep on at	linger on
live on	move on	pass on（to）
play on	plod on	plough on
push on	press on（with）	rabbit on（about）
ramble on（about）	rattle on（about）	roll on
rumble on	send on（to）	soldier on
spur on	stay on	struggle on
tick on	urge on	wave on
wear on		

多くの場合，on は自動詞と結合して自動詞句動詞あるいは自動詞句前置詞動詞（intransitive phrasal prepositional verb）を形成するが，hand, pass, send, wave, cheer, egg, goad, spur, urge, move などの他動詞とも結合して，他動詞句動詞（transitive phrasal verb）あるいは他動詞句前置詞動詞（transitive phrasal prepositional verb）を形成する。

上のリストからも明らかなように，on が結合する前置詞は，主に about, at, with, to, for である。これは on との結合というよりも on を含む句動詞との結合と言ったほうが正確かもしれない。なぜなら継続の意の on を含む「動詞＋on＋前置詞」結合においては，前置詞は多分に動詞によって決定されることが多いからである。ただ一つの例外は on at という結合である。

(65) His wife'*s* forever *on at* him to do something about the fence. [ODCIE]

(66) She *keeps on at* the children all day about one thing or another. [LDPV]

(67) I didn't want him *getting on at* you. [CCDPV]

(68) She'*s been going on at* me for a year to buy her a new coat. [LDPV]

上例 (65)－(68) において，動詞のいかんにかかわらず "repeatedly ask or find fault with" の意味を表している。このことから，意味の中心は動詞というよりは on at にあることがわかる。2. 3. でも述べたように，at は一点（a point）を表す。on at を分析的に解釈すると，「人という一点に向かって（at）しつこく繰り返し（on）言う」となる。ここから「がみがみ言う，しかる，非難する，せがむ(nag, scold, criticize, pester)」などの意味を表すと考えられる。ここでも on は継続という強調的な意味を表す。

次に，go on in, come on in, go on out, come on back などの句前置詞動詞について考えてみよう。これらの表現は英英辞書には成句扱いとはなっていない。ただし，口語レベルで盛んに用いられる表現である。この

on はどういう機能を果たしているのだろうか。そのことを考える前にまず次の用例をみてみる。

(69) "You want beauty," said Hercule Poirot. "Beauty at any price. For me, it is truth I want. Always truth."
Michael Garfield laughed. "*Go on* home to your police friends and leave me here in my local paradise. Get thee beyond me, Satan."
－Agatha Christie, *Halowe'en Party*
(「あなたは美を求めている」とエリキュール・ポアロは言った。「どんなことをしても美をね。私にとっては，求めているのは真実なのです。つねに真実なのです」マイケル・ガーフィールドは笑って言った。「さあ，警視の友だちのところに行きなさい。そして，わたしをこの地の楽園に残しておいてください。汝，我より去れ，悪魔よ」)

マイケルが "*go on* home to your police friends" と言って，ポアロに「もうこれぐらいにして，さあ，友人の警視の家へ行ってください」と強く促している場面である。"go home. . ." と言ったのでは，この注意の喚起，催促といった意味合いは出ないのではないかと思われる。文脈から判断して，ここでは on が用いられた必然的理由があるように思われる。この on は一言で言うと強調（emphasis）ということになる。

さて，on が強調の意を添えることを上でみたわけだが，この on が come in, go out などの自動詞句動詞とともに用いられることがある。次例は go on out の例である。

(70) She was silent a minute, then asked, 'Where do you keep the books you read? I never see any in your room outside of a few cheap trashy ones.' He wouldn't tell her.
'In that case you're not worth a buck of my hard-earned money. Why should I break my back for you? *Go on out*, you bum, and get a job.'
'He stayed in his room for almost a week, except to sneak into the kitchen when nobody was home. Sophie railed at him, then begged him to come out, . . .' －Bernard Malamud, *A Summer's Reading*
(彼女はちょっと黙り込んで，それからたずねた。「あんたは読んだ本をどこにしまってるの？部屋にはつまらない本が少しあるだけで，ほかに本はないみたいだけど」彼は口をきこうともしなかった。「だったら，あんたはわたしが苦労してかせいだ1ドルの価値もない人だよ。いったいだれのために苦労したと思ってるの。あんたのためよ。さっさと出ていって，仕事を見つけるのよ」彼はほとんど1週間自分の部屋に閉じこもったままだった。ただ，家にだれもいないときは台所へ忍び込んだ。彼女は彼をののしった。それから，出ていっておくれと頼んだ」)

弟は1週間も部屋にじっと閉じこもって出てこない。そこで姉のサフィーは弟に，「あんた，早く部屋から出ていって，職でも見つけな」とののしるわけである。go *on* out と on を用いることによって「さあ，さっさと部屋を出ていって」という促す気持ちを強く言い表したのではないかと推察される。音声上も，on に強勢が置かれ，強めて発音される。

次例（71）は go on in の例。

(71) 'Where's Morris?' the detective asked the clerk.
'In the back.'
'*Go on in*,' said Detective Minogue to the handcuffed man. They went into the back. －Bernard Malamud, *The Assistant*
(「モリスはどこにいる？」と刑事は店員にたずねた。「奥ですよ」「さあ，なかへはいれ」とミノーグ刑事は手錠の男に言った。2人は奥へ行った)

ミノーグ刑事が，犯人と思われる男を，確認のためにモリスの家へ連れてきた。刑事がその男に，奥の部屋に「さあ，はいれ」と命令した場面である。状況から命令調で強く促したことがわかる。go *on* in と on を添えることによってこの強調の意が強く出ている。

次例（72）も go on in の例。（73）は come on in の例である。

(72) Craddock slipped the folder quickly back in his pocket as Bryan returned. 'Cedric's in the library,' he said. '*Go on in*.'
He resumed his place on the dresser. Inspector Craddock went to the library. －Agatha Christie, *4 : 50 from Paddington*
(クラドックは，ブライアンが戻ってくると，すばやくフォルダーをポケットへ滑り込ませた。「セドリックは図書室にいます」と彼は言った。「行ってごらんなさい」ブライアンは再び調理台にもたれかかった。クラドック警部は図書室へ行った)

(73) "They're not supposed to," said Mrs. Oliver, but you'd be surprised at the things that happen sometimes. My last electric light bill, for instance. I know there's a proverb which says, 'To err is human' but a human error is nothing to what a computer can do if it tries. *Come on in* and meet Mrs. Drake."

Mrs. Drake was certainly something, Poirot thought.

－Agatha Christie, *Halowe'en Party*

(「そんなことはないわ。でも，ときどきいろんなことが起こるので，びっくりしますわ。たとえば，先月のわたしの電気代の請求書ですよ。「過つは人の常」という諺があることは知っています。でも，人間の過ちなんて，コンピューターがおかす過ちに比べると，どういうことってありませんわ。さあ，はいって，ミセス・ドレイクにお会いなさい」とミセス・オリバーは言った。ミセス・ドレイクは確かになみの女ではないな，とポアロは思った)

(72) は，ブライアンがクラドック警部に，図書室に行くよう促している場面である。(73) は，オリバーがポワロに玄関先で，家の中へ入ることを勧めている場面である。いずれも行動を強く促している状況で on が用いられていることがわかる。また on は強勢を置いて発音される。このように on は，come in, go in, go out などの自動詞句動詞に付加されて強調の意を添え，come on in, go on in, go on out のような自動詞句前置詞動詞を形成するものと考えられる。

4. 終わりに

本稿では，away, on という不変化詞が動詞に対してどのような意味関係を持つかという点から説き起こし，away, on は継続という相的な意味を表し，動詞と結合して句動詞や句前置詞動詞を形成することをみてきた。また away, on は継続を表すといっても，その表す意味に違いがあること，つまり away は起点からの移動を表すことから，終端のない永続的な意味での継続を表すのに対し，on は表面との接触を表すことから抵抗を受けて継続する含意を伴うことなど，その中核的意味を考えることによって，away, on のもつ微妙な意味の違いをとらえ，それが句動詞や句前置詞動詞全体の意味にどう影響を与えるのか，考えてみた。比喩的意味を持つに至った高度にイディオマティックな句動詞や句前置詞動詞においてさえも，特に相的な意味を表す不変化詞である away と on は，句全体の意味のなかに埋没するのではなく，動詞になんらかの意味を与え，動詞表現の豊かさに一味添えているのである。

文　献

Cambridge International Dictionary of English. Cambridge : CUP. 1995. [CIDE]

Collins Cobuild Dictionary of Phrasal Verbs. London : HarperCollins Publishers. 1998. [CCDPV]

Collins Cobuild English Dictionary for Advanced Leaners. London : HarperCollins Publishers. 2001. [CCED]

Collins Cobuild English Usage. London : HarperCollins Publishers. 1992.

Courtney, R. *Longman Dictionary of Phrasal Verbs*. London : Longman. 1983. [LDPV]

Cowie, A. P. & R. Mackin. *Oxford Dictionary of Current Idiomatic English*. Volume I. London : OUP. 1975. [ODCIE]

Hill, L. A. *Prepositions and Adverbial Particles*. London : OUP. 1968. [PAP]

Lindstromberg, S. *English Prepositions Explained*. Amsterdam : John Benjamins Publishing Company. 1998.

Longman Dictionary of Contemporary English. Edinburgh : Pearson Education Limited. 2003. [LDCE]

Longman Phrasal Verbs Dictionary. Edinburgh : Pearson Education Limited. 2000. [LPVD]

Oxford Advanced Learner's Dictionary of Current English. London : OUP. 2000. [OALD]

Oxford Phrasal Verbs Dictionary for Learners of English. London : OUP. 2001. [OPVD]

Quirk, R., S. Greenbaum, G. Leech & J. Svartvik. *A Comprehensive Grammar of the English Language*. London : Longman. 1985. [Quirk *et al*.]

Webster's New World College Dictionary. New York : Macmillan. 1999. [WNWCD]